

# 熊本地震と医療・教育現場の被災状況

## 熊本地震の被災病院となつて



上益城郡医師会会長

永田 壮一

一回目、四月十四日午後九時二分、大きな揺れが益城町を襲った。前震である。私の病院では、この前震で、上下水道、電気、ガス、すべてのインフラが止まった。吸引器や人工呼吸器、心電図モニター、シリンジポンプや多くのME機器、CTなどのレントゲン機器は全て使用不能となった。外来診療は休診とし、診療部長に巡回診療を依頼し、副院長には関連施設の巡回を依頼、事務長を始め事務部門には電子カルテのサーバーのチェック、役場に対してインフラ回復のスケジュールなどの確認を依頼、看護部長・師長には入院患者の家族への連絡や安全確保を依頼した。巡回診療では在宅人工呼吸の患者さん宅で電気の復旧めどが立たないとS病院へ搬送した。電子カルテのサーバーのデータは助かったものの電気の復旧目処が立たないままである。

患者さんの中には地震に対する不安が強く、転院を望む声も聞かれたので、患者さんの希望により退院、転院を指示。またインフラ復旧の見込みが立たないと、診療部長を通じてDMATに連絡し、広域搬送を決断した。十五日夜の九時過ぎである。搬送先は市民病院を主として決定された。夜十一時過ぎから徐々に救急車が集まり始める。病院に投光器が当てられ周りに多くの救急車、消防車が集まった。十二時過ぎに搬送開始。余震はあるもののそれほど大きな揺れはなく、無事な患者さんたちを見ながら、駐車場で停めていた自分の車の中で休憩をとることにした。

突然車が大きくバウンドした。上下左右に激しく揺すられる。まるで、遊園地の絶叫マシンにでも乗っているようだ。突然車の外は白煙で覆われ、揺れが収まった。外に出ると白煙で息苦しい。周囲を見回すとさっきまで建っていた建物が崩れて倒壊している。白煙はそこから出た土埃だった。これが、二回目の激震（震度7）である。

病院にはまだ投光器が当てられている。当院の木村事務長の姿を見かけ傍に行き声をかける。二三名ほどの患者さんたちと病院のスタッフが病院内に残っているとのことだった。しかし、DMATチームも地震で入り口近辺のアスファルトが崩れ陥没して院内に入れない。昨日の地震でひび割れた駐車場のアスファルトは

さらに大きく割れ一部は陥没している。道路の地割れ、隆起、陥没が其処此処に見られ、側道の路側帯もほとんど割れて歩くのもままならない。病院の裏手、南側は地盤が六〇cm以上沈下し、病院棟部分が半分に分かれ南側方向に傾いている。レスキュー隊に救出を依頼し、患者さん

の無事と従業員の無事を祈りながらレスキュー隊の到着を待つ。救助された患者さんは皆怪我もなく無事だ。この二回の地震で病院機能は全廃した。内部の被災状況は深刻である。ただ、入院の患者さんたちに被害がなかった事だけが救いであった。

